

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立静岡南部特別支援学校 P T A	
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	14人

1. 使用状況

寄贈物品名	座位サポートクッション
使用学年及び人数	全校児童生徒 14人
使用頻度	毎日、週2回
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問教育生のスクーリングの授業で、校内の一室で感覚遊びを行い、いろいろな遊具の中で座位サポートクッションを休憩場所として設置した。 ・ 自立活動等では、身体のリラックスを目的に使用している。体を動かした後に寝てリラックスしたり上に座ってバランスをとったりする目的で使用した。体育では、サーキット活動で種目の一つとして使用し、座位サポートクッションの上で力を抜いたり、揺れを楽しんだりすることができた。 ・ 毎日の学習の中で姿勢保持のために使用することもある。
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 座位サポートクッションに体を委ね、体の力を抜いてリラックスすることができた。仰向けに寝ころび、体が沈むような感覚に驚いたような表情を見せる児童生徒もいた。 ・ リラックスして寝る様子や、自分から手や足を動かしてバランスを保つ様子、弾みや揺れを楽しむ姿が見られた。 ・ 大きくて安定感があるため、使用することで姿勢が崩れにくくなった。また、児童生徒も座位サポートクッションを使用して座っているときに、両腕を乗せてリラックスしたり、上半身を横に倒してもたれたりすることもある。継続して使用してきたことで、児童自身も使うことに慣れ、座位姿勢でも安心して学習に取り組めるようになった。
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 姿勢を保つことが難しい重度重複障害をもつ児童生徒にとって、姿勢の安定を図ることに有効だと感じている。また、座位サポートクッションにもたれたり、寝た姿勢をとったりすると包み込まれるような感覚でリラクゼーションにも役立っている。 今後引き続き、効果的な活用を行っていきたい。
その他希望や所感など	<ul style="list-style-type: none"> ・ U字クッションにもう少し高さがあれば、脇の下までしっかり支えられるようになり、姿勢が安定すると思う。 ・ 持ち手があり、乗馬のようにまたがって、バランスが取れるクッションがあるといいと思う。

2. 活用の様子



感覚遊びを行ったときには、いろいろな遊具の中で座位サポートクッションを休憩場所とした。安定した姿勢で乗ることができた。体の力を抜いてゆったりとリラックスして周囲にいる友達の様子を気にしたり、教師の言葉掛けに笑顔で応えたりしていた。



座位サポートクッションに乗ると、身体や腕を伸ばしてリラックスした姿勢をとった。横向きになったり降りようとしたりせず、身体を座位サポートクッションに委ねていた。

自分から体を動かして沈み込むのを楽しんだり、目を閉じて気持ちよさそうにしたりする様子が見られた。



座位サポートクッションに背をあずけ、力を抜いて活動に取り組む姿が見られた。車椅子上では背中が丸まりやすく顔が下を向くことが多いが、座位サポートクッション使用時には顔が上がり周囲の様子をよく見ていた。

車椅子に乗っているときは下を向いていることが多いが、座位サポートクッションの上では背中が伸び、一定時間顔を上げて天井を見続ける様子が見られた。



とても安定感があるので、リラックスして座位をとることができる。また、座位姿勢でも安心して学習に取り組めるようになった。